

2024年2月20日
第141号
(Web版第35号)

日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会
JAPANESE ASSOCIATION OF
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 新会長挨拶
 - II 第18期理事会・学会事務局の体制について
 - III 第51回(2024年度)大会の日程について
 - IV 第51回(2024年度)大会 テーマセッション企画募集
 - V 第51回(2024年度)大会 自由報告募集
 - VI 第23回(2024年度)「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集
 - VII 選挙管理委員会報告
 - VIII 第50回大会開催報告
 - IX 理事会開催報告
 - X 第50回総会開催報告
 - XI 追悼 河合幹雄先生
 - XII 各部・委員会報告
- 付 会計資料

※第107号からニュースレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間1回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

I 新会長挨拶

日本犯罪社会学会
第 18 期会長 浜井浩一



本学会も設立から 50 年を迎え、2023 年 10 月に立正大学において 50 回目の大会を開催しました。そこで第 17 期に続き、第 18 期の会長として選出されました。どうぞよろしくお願いいたします。

第 50 回大会を記念して企画されたテーマセッション「日本犯罪社会学会の創成期を語る」において、本学会が発展してきた背景には、学際性だけでなく、学術団体特有の権威性が排除され自由闊達な議論が行われていたことにあるとの指摘がありました。また、第 50 回大会では、立ち直り研究の第一人者である Shadd Maruna 先生による記念講演を企画し、元受刑者などの当事者が犯罪学の理論と想像力に与える影響についてご講演いただきました。そこで、Maruna 先生は、立ち直りのプロセスを知っているのは当事者だけであり、立ち直った当事者が自らの物語を語ることで、刑事司法の在り方そのものを変えていく可能性について言及されました。その後の大会シンポジウムでは「包摂概念を見直す」と題して、当事者性や多様性、レジリエンスが称揚される現在、包摂概念を見直し、境界線の引き直しについて、当事者が既存の社会そのものを変えていく可能性を含めて議論が行われました。第 17 期の会長挨拶の中で、会長としての抱負として、「本学会の持つ学際性と多様性の伝統をさらに発展させることで、犯罪学の持つ可能性を追求していくことだと考えています。」と書きましたが、最近の大会では、大学等の研究者や実務家に様々な当事者が加わることで議論に深みや広がりが生まれていると思います。もちろん、本学会は学術団体であり、会則第 2 条に「本会は、犯罪社会学の発展・普及および研究者相互の連携・協力をはかることを目的とする。」とあるように、実務家や当事者、さらには犯罪社会学に関心を持つ人たちが、犯罪社会学を研究する研究者として議論に加わることが重要であることは言うまでもありません。

第 17 期の全国理事会や総会での会長就任あいさつでは、「世代交代」と「感謝と恩返し」という二つのキーワードを挙げさせてもらいました。第 18 期は、この思いを引き継ぎつつ、大学等研究環境の変化などに対応し、学会や大会運営の持続可能性を図るために、財政面を含めて様々な改革に着手していかなくてはなりません。次世代にバトンタッチするためにも、常任理事会を構成する各委員会の委員長などの世代交代を進めつつ、一つ一つの課題に取り組んでいきたいと思っています。研究者としての私を育ててくれたのは日本犯罪社会学会です。その恩に報いるためにも、もう 3 年間、研究と実務、そして世代間の架け橋となることで本学会が更に発展できるように微力を尽くしてまいりたいと思います。

II 第 18 期理事会・学会事務局の体制について

1. 理事会において互選された常任理事および担当は下記の通りです。（敬称略・50 音順）

会長：浜井浩一

本部事務局庶務部：相澤育郎（部長）、津島昌寛

本部事務局会計部：相良翔（部長）、赤羽由起夫

研究委員会：森久智江（委員長）、正木祐史、水藤昌彦、上田光明

編集委員会：松原英世（委員長）、武内謙治

企画調整員会：丸山泰弘（委員長）、柴田守

渉外広報委員会：笹倉香奈（委員長）、山口直也、宮園久栄

なお、常任以外の理事は下記の通りです。（）内は担当です。

大庭絵里（編集委員会）、岡田行雄、葛野尋之、後藤弘子、本庄武、土井隆義、四方光（編集委員会）、平山真理（渉外広報委員会）

2. 下記の会員が浜井浩一会長より委員に委嘱されました。（）内は担当です。

暮井真絵子（本部事務局庶務部）、周筱（本部事務局会計部）、岡村逸郎（本部事務局会計部）、大谷彬矩（研究委員会）、大塚英理子（研究委員会）、櫻井悟史（研究委員会）、竹中祐二（研究委員会）、松川杏寧（研究委員会）、山口裕貴（研究委員会）、石田侑矢（編集委員会）、大江將貴（編集委員会）、我藤諭（編集委員会）、仲野由佳理（編集委員会）、島亜紀（編集委員会）、中村悠人（編集委員会）、寺本奈津樹（編集委員会）、佐竹宏章（編集委員会）、掛川直之（企画調整委員会）、山梨光貴（企画調整委員会）、吉田緑（企画調整委員会）、小関慶太（渉外広報委員会）、ブルースター・デイビッド（渉外広報委員会）

3. 下記の会員が浜井浩一会長より編集委員に委嘱されました。

<編集委員会委員>

松原英世（編集委員長）、武内謙治、平山真理、柴田守、四方光、津島昌寛、水藤昌彦、宮園久栄、大庭絵里、正木祐史、石田侑矢、大江將貴、我藤諭、仲野由佳理、島亜紀、中村悠人、寺本奈津樹、佐竹宏章

Ⅲ 第 51 回（2024 年度）大会の日程について

第 51 回大会は 2024 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）に京都大学吉田キャンパス（京都府京都市左京区吉田本町）で開催される予定です。また、現時点で大会はインパーソンでの開催を予定しています。詳細が決まりましたら、ニューズレター及び学会ウェブサイトでお知らせします。

なお、本大会の印刷版のプログラムは発行しません。プログラムの電子版を、9 月中旬ごろ、学会ウェブサイトで公開する予定です。

また、第 50 回大会での経験をふまえて、本大会では、シンポジウムを含むすべての企画において、配付資料の電子化（オンライン配付）を実施します。参加者ご自身で、Google Drive から資料をダウンロードしていただきます（ダウンロードをする際、Google アカウントは不要です）。ダウンロード可能期間内であれば、いつでもダウンロード可能となります。また、大会当日、大会校では可能な限り Wi-Fi 環境を用意する予定です。詳細は、ニューズレター及び学会ウェブサイトでお知らせします。

●配布資料の原則電子化について

これまで試行的に実施してきた、配布資料の原則電子化について、本大会より以下のような方法で本格導入いたします。

<配布方法と配布時期>

プログラムおよび学会ウェブサイトですら事前にお知らせする Google ドライブで配布いたします。ダウンロード URL は学会参加者にのみ配布されます。学会開催前の所定の期日から閉会后 2 週間の間はアクセス可能で、その期間内であれば何度でもダウンロード可能です。

<登壇者・資料配布者>

配布したい資料がおありの方は、学会開催 1 週間前期間までに、研究委員会が指定する Google ドライブに保存してください。

また、大会当日、会場へご持参いただいた紙媒体での資料を配布いただくことは妨げません。ただし、部数が足りなくなった場合に追加で印刷を行う、余った資料を廃棄するといった対応は、大会校や研究委員会では出来かねますので何卒ご了承ください。

IV 第 51 回（2024 年度）大会 テーマセッション企画募集

研究委員会では、第 51 回大会のテーマセッションの企画を会員の皆さまより募集します。犯罪社会学あるいは関連する周辺諸分野について現在関心をお持ちのテーマがありましたら、奮ってご応募ください。

なお、現時点では、テーマセッションの開催される日と時間帯は未定です。また、第 36 回大会より、それまでのミニシンポジウムとラウンドテーブル・ディスカッションの区分を廃し、統一して「テーマセッション」として開催しております。

●申込方法：Google フォームにて、以下の項目をお知らせください。

メールアドレス

申込者氏名（所属）

企画テーマ名

セッション形式：ラウンドテーブル・ディスカッション or ミニシンポジウム

プロジェクタの要否

（他学会等で類似の企画がなされている（予定も含む）場合）その詳細

※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。

●申込先 URL：<https://forms.gle/L7mwjLSiPjfRytg8>

※研究委員会や学会事務局へのメールでのお申込みは、ご遠慮ください。

●申込期限：2024 年 3 月 20 日（水）必着

●問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：大谷 彬矩）

電子メールアドレス：hansha2024kenkyu@gmail.com

●連絡事項：

*大会はインパーソンでの開催を予定しています。

*各テーマセッションの時間として 180 分を確保します。

*報告者・話題提供者等は、フォームによるお申込みの段階では未定でも構いません。

*プロジェクタの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USB メモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。

*申込が受理されると自動的にメールが届きます。メールが届かない場合は、メールアドレスが誤っている可能性がありますので、再度お申込みください。それでも届かない場合は、メールでお問合せください。メールは第 51 回大会窓口 [hansha2024kenkyu@gmail.com] と学会事務局 [hansha@daishodai.ac.jp] の両方に送信してください。

*プログラム構成上の制約により大会期間中に開催できるテーマセッションの数には限りがあるため、応募が多数であった場合は調整させていただくことがあり得ます。応募が受理できない場合は、研究委員会より 4 月末までにその旨をご連絡します。

*企画が採択された場合、2024 年 6 月 1 日（土）までにプログラム原稿、大会終了後 2 週間以内に大会要旨集原稿をご提出いただきます。詳細は後日、研究委員会よりご案内します。

- *複数の企画に登壇する報告者・話題提供者がいる場合、開催時間が重複しないように調整は行うものの、対応できない場合もあります。
- *テーマセッション開催日時指定はできません。
- *テーマセッションは、特定のテーマについて複数の報告者が報告・話題提供を行い、それを受けて参加者間でディスカッションを行うことに意義があります。フロアを交えた質疑応答やディスカッションの時間を確保することを前提に、報告者・話題提供者の人数が過多にならないようにご注意ください。
- *大会以前に、他学会等で類似の企画がなされている（予定も含む）場合には、詳細の申告をお願いします。
- *コーディネーター・司会者・報告者・話題提供者（指定討論者を除く）の総数のうち非会員の割合は50%未満としてください。報告時点で会員になっていれば、応募時は非会員であっても会員とみなします。
- *企画テーマ名の変更は一切できません。
- *今大会では、レジュメ等の資料配布は原則としてオンラインで実施します。コーディネーターにはご自身のGoogleアカウントから、セッションで用いる全資料をアップロードしていただきます。詳細は後日、研究委員会よりメールにてご案内しますので、メールを必ずご確認ください。

V 第51回（2024年度）大会 自由報告募集

研究委員会では、会員の皆さまの自由報告を募集します。

- 申込方法：Googleフォームにて、以下の項目をお知らせください。

メールアドレス

申込者氏名（所属）

共同研究者氏名（所属）

上記それぞれについて当日報告をするか否か

報告タイトル

プロジェクトの要否

大会プログラムに掲載する報告概要原稿（150字以上200字以内）

（他学会等で類似の報告がなされている（予定も含む）場合）その詳細

※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。

- 申込先URL：<https://forms.gle/uog3jbau8mxfrBGC8>

※研究委員会や学会事務局へのメールでのお申込みは、ご遠慮ください。

- 申込期限：2024年6月1日（土）必着

- 問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：大谷 彬矩）

電子メールアドレス：hansha2024kenkyu@gmail.com

- 連絡事項：

*現時点で大会はインパーソンでの開催を予定しています。

*自由報告は1名でもグループでも申し込みます。

*申込者と報告者は会員に限ります。共同研究者は非会員でも構いませんが、当日の登壇はできません。

*1件の申込みにつき1つの報告となります。

- * 会員 1 名につき、申込み及び報告は 1 件までとなります。ただし、他の報告者の共同研究者となることは妨げません。
 - * 報告時間は質疑応答を含めて 1 件 30 分以内（このうち報告時間は 20～25 分）となります。共同研究者がいる場合でも、報告時間は変わりませんのでご注意ください。
 - * 申込みの時点で大会プログラムに掲載する報告概要の原稿（150 字以上 200 字以内）をご提出ください。原稿は、原則として修正できません。
 - * 大会プログラムに掲載された報告概要の著作権は、日本犯罪社会学会に帰属します。
 - * プロジェクタの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USB メモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。
 - * 申込が受理されると自動的にメールが届きます。メールが届かない場合は、メールアドレスが誤っている可能性がありますので、再度お申込みください。それでも届かない場合は、メールでお問合わせください。メールは第 51 回大会窓口 [hansha2024kenkyu@gmail.com] と学会事務局 [hansha@daishodai.ac.jp] の両方に送信してください。
 - * 自由報告実施の日時や会場の指定はできません。
 - * 報告タイトルや報告者（連名の場合の順番を含む）の変更は一切できません。
 - * 大会以前に、他学会等で類似の報告がなされている（予定も含む）場合には、詳細の申告をお願いいたします。
 - * 今大会では、レジュメ等の資料配布は原則としてオンラインで実施します。報告者はご自身の Google アカウントから、資料をアップロードしていただきます。詳細は後日、研究委員会よりメールにてご案内しますので、メールを必ずご確認ください。
- 自由報告でお守りいただきたいこと：
- * 自由報告会場には、（報告ではなく）セッション開始の 20 分前までに必ずお入りください。やむをえず遅刻・欠席する場合は、必ず上記メールアドレス宛にご連絡ください。
 - * 自由報告時にプロジェクタをご使用になられる場合、必ずセッション開始時刻前に、動作確認をお願いいたします。
 - * セッションの時間中に自由報告会場から離れることは、原則としてできません。無断で離れた場合には「報告が成立した」と認めない場合があります。
 - * 自由報告者の方には、大会前日までに、メールで大会要旨集原稿をご提出いただきます。詳細は後日、研究委員会よりメールにてご案内しますので、メールを必ずご確認ください。

VI 第 23 回（2024 年度）「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集

日本犯罪社会学会では、犯罪、非行、刑事司法、及び、それらに関連する諸事象に関する社会科学的研究の活性化と発展のため、そして、知的資産の不断の蓄積および学術内容の更なる質的向上のため（特に若手研究者への刺激と登龍門として）、「日本犯罪社会学会奨励賞」を創設し、受賞研究業績を選考し表彰しております。

2024 年度は、著書が選考対象となる年です。2022 年 4 月から 2024 年 3 月までに公表された、原則として満 40 歳以下の会員（受賞時点で会員であること）による著書の自薦・他薦を募集いたします。ノミネートの期限は 2024 年 3 月 31 日（消印有効）です。詳細は学会ホームページの「奨励賞規約」 (<http://hansha.daishodai.ac.jp/promotion/index.html>) をご覧下さい。

自薦・他薦いただく際には、以下の情報を記した書面とともに、選考対象著書を5部、学会事務局宛ご送付いただくようお願いいたします。封筒に「奨励賞応募著書在中」とご明記ください。なお、応募された著書5部は返却いたしません。

- 1) 選考対象の著者名（フリガナ）、連絡先住所、電話番号、メールアドレス
- 2) 選考対象者の生年月日
- 3) 選考対象著書名、出版社名、出版年月日
- 4) 他薦の際には、推薦者の連絡先住所、電話番号、メールアドレス

日本犯罪社会学会 事務局
〒577-0036 東大阪市御厨栄町 3-1-35 学術センター U-Box 2F

VII 選挙管理委員会報告

2023年度理事選挙の経過及び結果は、以下の通りです。

<経過>

- 第17期第8回常任理事会にて本年度選挙管理委員候補者が決定され、以下6名に委嘱された。
- 相澤育郎、赤羽由起夫、石塚伸一、岡村逸郎、四方光、宮園久栄（五十音順、敬称略）
- 2023年2月12日第1回会議において、石塚会員を選挙管理委員長とすることで決定された。
- 5月12日現在で選挙権者名簿を確定。
選挙権者：427名
東日本区：238名（55.7%）⇒ 14名選出
西日本区：187名（43.8%）⇒ 11名選出
- 5月28日付で、選挙権者に投票用紙等を発送。
- 6月30日消印有効で投票締切。
投票者数：95名（投票率：22.2%〔前回29.9%〕）
- 7月16日開票。

<開票結果>

- 投票総数：95名×10票=950票
- 有効投票：95名×10票=950票
有効票：861票
白票：83票
無効票：6票

<第18期理事就任者>（選挙区別、五十音順、敬称略）

東日本区	西日本区
相澤 育郎	赤羽 由起夫
大庭 絵里	上田 光明
河合 幹雄	岡田 行雄
葛野 尋之	笹倉 香奈
後藤 弘子	武内 謙治
相良 翔	津島 昌寛
四方 光	浜井 浩一

柴田 守	松原 英世
土井 隆義	水藤 昌彦
平山 真理	森久 智江
本庄 武	山口 直也
正木 祐史	
丸山 泰弘	
宮園 久栄	

VIII 第 50 回大会開催報告

日本犯罪社会学会第 50 回大会が、2023 年 10 月 14 日（土）、15 日（日）の 2 日間にわたり、立正大学品川キャンパスで開催されました。50 回目の記念大会として、Shad Maruna 氏（クイーンズ大学社会科学・教育・ソーシャルワーク学部教授）をお招きした特別講演、ならびに津富宏会員（静岡県立大学）による記念シンポジウム「包摂概念を見直す」（津富宏会員）が開催され、盛況のうちに閉幕いたしました。大会校を引き受けてくださった立正大学のみなさま、ならびにご参加いただいた会員のみなさまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。なお『日本犯罪社会学会第 50 回大会報告要旨集』は、学会ウェブサイトにも 3 月上旬にアップロードされる予定です。大会の内容につきましては、そちらの要旨集をご覧ください。

IX 理事会開催報告

2023 年 10 月 13 日（金）16:00 から、立正大学品川キャンパスにて、第 17 期第 5 回全国理事会が開かれ、総会に発議・報告する事案についての検討が行われました。

開会時点において、出席理事数 18 名、委任状提出理事 8 名の計 26 名であり、定足数を満たしていることが確認されました。

1. 審議事項は以下のとおりでした。

（1）2022 年度一般会計決算案、2022 年度特別会計決算案について、山本会計理事より提案され、承認されました。（2）2022 年度会計監査について、本庄監事より会計事務が適正に執行されているとの監査結果が報告され、承認されました。（3）2023 年度一般会計補正予算・2024 年度一般会計予算案、2024 年度特別会計予算案について、山本会計理事より提案され、承認されました。（4）入会希望者の入会承認について、相澤庶務理事より 8 名の入会希望者の入会承認について提案され、承認されました。

2. 報告事項は以下のとおりでした。

（1）第 18 期理事選挙結果について、石塚選挙管理員長に代わり浜井会長より経緯と結果について報告されました。（2）奨励賞の選考結果について、野田委員長に代わり田中理事より本年度は受賞作なしとすることが報告されました。（3）第 49 回大会（龍谷大学）の会計報告について、津島大会実行委員長に代わり田中理事より報告が行われました。（4）講座「犯罪学」について、津富理事より本年度実施した講座の振り返りと今後のあり方について報告されました。（5）各部・委員会報告として、各部・委員会から 1 年間の活動について報告されました。

X 第 50 回総会開催報告

2023 年 10 月 15 日（日）18:00 から立正大学品川キャンパスにて、第 50 回総会が開かれました。本部事務局庶務部が開会を宣言し、総会議長に服部朗会員と山梨光貴会員が選出されました。

1. 審議案件は以下のとおりでした。

（1）2022 年度一般会計決算案、2022 年度特別会計決算案について、山本会計理事より提案され、承認されました。（2）2022 年度会計監査について、佐々木監事より会計事務が適正に執行されているとの監査結果が報告され、承認されました。（3）2023 年度一般会計補正予算・2024 年度一般会計予算案、2024 年度特別会計予算案について、山本会計理事より提案され、承認されました。

2. 報告事項は以下のとおりでした。

（1）第 18 期理事選挙結果について、石塚選挙管理員長より経緯と結果について報告されました。（2）奨励賞の選考結果について、野田委員長より本年度は受賞作なしとすることが報告されました。（3）第 49 回大会（龍谷大学）の会計報告について、津島大会実行委員長より報告が行われました。（4）講座「犯罪学」について、津富理事より本年度実施した講座の振り返りと今後のあり方について報告されました。（5）各部・委員会報告として、各部・委員会から 1 年間の活動について報告されました。

XI 追悼 河合幹雄先生

河合幹雄先生を偲ぶ

平山 真理（白鷗大学法学部教授）

2023 年 11 月 26 日、河合幹雄先生が、63 歳でご逝去されました。河合先生は奈良県天理市のご出身で、1982 年に京都大学理学部を卒業後、京都大学大学院法学研究科で学ばれ、法社会学を専攻されました。とくに刑事司法や犯罪に焦点を当てたご研究が多く、著書『安全神話崩壊のパラドックス～治安の法社会学～』（2004 年 岩波書店）では、犯罪統計等のデータを丁寧に分析し、そこに隠れている「事実」をあぶりだすことで、“日本の治安は悪化している”という認識が誤っていることを指摘されました。当時の日本は犯罪の認知件数が増加し続け（2002 年にピーク）、体感治安の悪化やペナルポピュリズムが進んでおり、河合先生のご研究は、大きな注目と関心を集めました。同書は 2006 年に日本法社会学会より学会奨励賞を受賞しました。

このほかにも、河合先生には、『終身刑の死角』（洋泉社 2009）、『日本の殺人』（筑摩書房 2009）、『現代刑務所の作法』（監修、シービー 2021）等、多くの著作がおりになります。

河合先生はフランス留学の期間も長く、1988 年にはフランス国立科学研究センター比較法研究所（IRJC）助手、また 1992～1996 年にかけてパリ第 10 大学法学博士論文準備生として研究されました。河合先生は 1993 年 4 月に桐蔭横浜大学法学部法律学科に着任され、法社会学の研究と教育に携われ、同大学において法学部長や副学長等を歴任されました。

河合先生は学会・社会貢献活動にも精力的にご尽力され、本学会常任理事、日本法社会学会理事、全国篤志面接委員連盟評議員、法務省矯正局における「矯正に関する政策研究会」委員、EMA（モバイルコンテンツ審査・運用監視機構）基準策定委員会委員、横浜刑務所視察委員会委員長等も歴任されました。

本学会でも複数回にわたりシンポジウムや分科会を企画され、その一つに2010年大会における第7回公開シンポジウム「有罪判決後の被告人の人生～量刑のための知識」があります。これは、裁判員裁判が積み上げられていくことで、被告人の「判決後」の人生、つまり施設内処遇や社会内処遇に対する市民の認識や理解がどう変わっていくか（いくべきか）をテーマにした、非常に面白い「切り口」のシンポジウムでした。

研究者としての河合先生は常に、研究の「切り口」の絶妙な方で、独創的でユニークな着眼点から物事を深く分析されました。

ありがたいことに私は河合先生と何度か研究をご一緒させて頂く機会を得ました。例えば、本学会第33回大会における河合先生企画のミニシンポジウム「性犯罪者とその対策」においては報告者の一人として、2010年～2015年にかけて科研費の新学術領域研究として河合先生が研究代表者を務めた「刑罰と犯罪防止—厳罰化と死刑の効果を信じる人々はどうすれば意見を変えるのか」においては、研究分担者として仲間に加えて頂きました。

以前、ある人が河合先生について「上品なやんちゃ」と表現したことがありました。河合先生をとてもうまく表現していると思います。河合先生は大胆な表現や議論をされることもありました。が、いつもそこには河合先生の持つ「品のよさ」がありました。

そしてもう一つ加えるならば、河合先生は絶対に人の悪口を言わない方でもありました。先生のそうしたお人柄も私はとても尊敬していました。

河合先生からご研究の話をお聞かせ頂くことは、私にとってとても楽しく有意義な時間でした。だから、河合先生からお話を聞かせ頂けなくなるのは、とてもさみしいです。

河合幹雄先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

XII 各部・委員会報告

1 研究委員会

第51回大会は2024年10月19日（土）、20日（日）に京都大学吉田キャンパス（京都府京都市左京区吉田本町）で開催されます。なお本大会では、これまで試行的に実施してきた託児サービス、配布資料の原則電子化を導入します。電子版プログラムの発行は9月中頃を予定しています。配布資料の原則電子化また、本大会より印刷版のプログラムは発行せず（プログラムの電子版は、9月中旬ごろ、学会ウェブサイトで公開する予定）、シンポジウムを含むすべての企画において、配付資料の原則電子化（オンライン配付）を実施します。これらの詳細は、ニューズレター及び学会ウェブサイトでお知らせします。

2 編集委員会

『犯罪社会学研究』48号が発行されました。皆様のご協力に感謝いたします。

『犯罪社会学研究』49号の自由論文・研究ノートの投稿締切は、2024年3月31日です。学会ホームページおよび犯罪社会学研究に記載されている投稿規程に従って、下記住所及びメールアドレス宛にご送付ください。なお、投稿締切に関して、特別な事情のある方は、必ず事前に編集委員会までご相談下さい。

また、投稿は常時受け付けております。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

<自由論文・研究ノートの送付方法と送付先>

自由論文・研究ノートの投稿に際しては、次の郵便、宅配便貨物または信書便等（以下「郵便等」）による送付とメールによる送信の両方を必ず行ってください。

【郵便等による送付】

以下の住所宛に投稿原稿 1 部を郵便等で送付してください。締切は、郵便等での送付につき 2024 年 3 月 31 日消印有効といたします。なお、郵便等での送付は、必ず追跡できる方法によってください。

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 ハッ橋ビル 7 階 現代人文社気付
日本犯罪社会学会編集委員会

【メールによる送付】

メールでの送信は、以下の要領で、PDF ファイルを電子メールに添付し、2024 年 3 月 31 日 23 時 59 分までに、送信先のアドレスに送付してください。

メールの件名：犯罪社会学研究 49 号投稿_（半角アンダーバー）投稿者氏名
例：犯罪社会学研究 49 号投稿_犯社太郎
ファイル名：犯罪社会学研究投稿_（半角アンダーバー）日付
例：犯罪社会学研究投稿_20240331.pdf
送信先：hansha@genjin.jp

- * 投稿にあたっては、投稿時に日本犯罪社会学会の会員である必要があります。投稿者（共著論文の場合は全員について）は、遅くとも投稿締切日までに学会事務局に入会申込書を送達していなければなりません（同日必着）。この要件を満たさない場合は、論文を受理いたしません。現在非会員で、今後投稿を予定されている方はご注意ください。
- * 編集委員会では、自由投稿論文の英文校閲を行っておりません。そのため、自由投稿論文の英文要旨については、投稿時点で筆者の責任においてしかるべき方法で英文校閲をおこなっていることを投稿の要件といたします。なお、査読過程で英文要旨の修正を求めることがありますので、あらかじめご了承ください。
- * 海外から投稿の場合、必ず事前に編集委員会までご相談下さい。
- * 研究ノートでの審査をご希望の場合は、論文の表紙か別紙に明記していただくか、編集委員会に事前にご連絡ください。

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局> hanshaedit18@gmail.com

3 渉外広報委員会

(1) 若手海外派遣事業

アジア犯罪学会・ヨーロッパ犯罪学会・アメリカ犯罪学会で研究報告を行う若手研究者を対象として、渡航費用の一部を補助いたします。

補助費用の上限は 10 万円、募集人数は 2 名程度、応募締切は 2024 年 4 月末日となっております。

詳細については学会ホームページをご参照の上、奮ってご応募ください。

(2) 研究会助成について

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。

年度ごとに 2 件、1 件あたりの助成金は 40,000 円です。

詳しくは学会ホームページをご参照の上、奮ってご応募ください。

4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

まだ2023年度の会費をお支払い頂いていない方は、郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。過年度未納分のある方は、古い年度分から充当させていただきます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 8,000 円

院生会員 6,000 円（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員）

国外会員 7,000 円（国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員）

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を3年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意ください。

5 本部事務局庶務部

(1) 献本（2023年7月12日～2024年1月5日）

- ・法務総合研究所『研究部報告 64 特殊詐欺事犯者に関する研究』
- ・法務総合研究所『研究部報告 65 非行少年と生育環境に関する研究』
- ・仲野由佳理『教育の<自由と強制>——矯正教育におけるナラティブ実践の機能に関する教育学的研究』ちとせプレス 以上3冊

(2) 会員数(2024年1月5日現在)

一般会員 425 名、海外会員 2 名、名誉会員 12 名、終身会員 4 名、特別会員 2 団体、合計 445 名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間1回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

お願い

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

TEL : 06-6618-4324 (月～金 10:00 - 6:00)

E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。

付 会 計 資 料

日本犯罪社会学会2022年度一般会計決算(東)

収 入 資 源		内 訳	2022年度決算	2022年度修正予算	2022年度予算
収 入	学 会 費	(一般会員) 429名中387件(通常会員281件、院生会員6件、終身会員0件)、02.8%, 3,147,513円	3,397,513	3,965,200	3,533,200
		(特別会員) 公益財団法人日工総社会安全研究財団: 200,000円 龍谷大学矯正・保護センター: 50,000円			
	寄 付 金	0	0	0	
	機関誌売上代	機関誌第47号1冊	3,630	30,000	30,000
	広 告	ちとせプレス、金剛出版、長河書房、尚学社、成文堂、有斐閣、日本加除出版: 各15,000円 刑事司法未来、現代人文社、日工総社会安全研究財団、龍谷大学、成城学園: 各20,000円	205,000	200,000	130,000
預 貯 金 利 息	ゆうちょ銀行39円、その他銀行預貯金利息13円	52	100	100	
小 計		3,606,195	3,395,300	3,683,300	
前 年 度 繰 越 金		8,007,338	8,007,338	7,237,961	
合 計		11,613,533	11,302,638	10,921,261	

支 出 資 源		内 訳	2022年度決算	2022年度修正予算	2022年度予算
支 出	印 刷 費	学会通知・資料等印刷、コピー費	240	52,000	52,000
	通 信 ・ 交 通 費	機関誌等郵送料、交通費、運送費	965,554	968,000	1,089,000
	会 議 ・ 会 費	理事会・各委員会・事務各種作業打ち合わせ、院内研究会	38,180	63,000	60,000
	備 品 ・ 消 耗 品 費	事務用備品等消耗品購入	90,854	35,000	35,000
	人 件 費	学会本部事務、大会アルバイト、総務委員手当、英文校閲費等	243,700	223,000	263,000
	謝 金		0	10,000	10,000
	大 会 準 備 開 閉 費	大会準備に要する費用	348,093	626,000	506,000
	大 会 補 助 費	大会開催社への大会運営補助	100,000	100,000	100,000
	機 関 誌 買 上 費	機関誌作成経費、抜き刷り印刷費	1,252,570	1,200,000	1,290,000
	選 挙 開 催 積 立 費	理事選挙費用、名簿作成のための積立金	131,000	131,000	131,000
	そ の 他	労災保険、CEAHSS会費、書写費等	5,734	6,000	6,000
	小 計		3,176,305	3,414,000	3,451,000
次 年 度 繰 越 金		8,437,228	7,888,638	7,470,261	
合 計		11,613,533	11,302,638	10,921,261	

以上の通り、一般会計に関してご報告致します。

2023年10月14日
会計理事 山本 功

会計理事 相良 翔

監査の結果、一般会計収支決算に誤りのないことを認めます。

2023年10月14日
監事 佐々木 光明

監事 本庄 武

日本犯罪社会学会2022年度選挙関係特別会計決算(案)

収入費目	内訳	2022年度決算	2022年度予算
選挙関係積立費	2021年度残高	369,683	369,683
	2022年度積立金	131,000	131,000
預貯金利息		3	2
合計		500,686	500,685

支出費目	内訳	2022年度決算	2022年度予算
選挙関係費		0	0
積立金繰越金		500,686	500,685
合計		500,686	500,685

日本犯罪社会学会2022年度奨励賞基金特別会計決算(案)

収入費目	内訳	収入額
寄付	寄付33件	557,000
前年度繰越金	2021年度寄付金残高	312,839
預貯金利息		2
収入合計		869,841

支出費目	内訳	支出額
賞金	副賞	100,000
通信・交通費	奨励賞送付料金(振込手数料)	330
支出小計		100,330
次年度繰越金		769,511
支出合計		869,841

日本犯罪社会学会2022年度研究基金特別会計決算(案)

収入費目	内訳	収入額
寄付		0
前年度繰越金		1,468,544
預貯金利息		6
収入合計		1,468,550

支出費目	内訳	支出額
研究会補助費		0
若手研究者海外派遣補助費		0
犯罪学セミナー運営費		0
通信・交通費		0
次年度繰越金		1,468,550
支出合計		1,468,550

以上の通り、特別会計に関してご報告致します。

会計理事

2023年10月14日

山本 功



会計理事

相良 翔



監査の結果、特別会計収支決算に誤りのないことを認めます。

2023年10月14日

監事

佐々木 光明



監事

本庄 武

